



中国平安
PING AN



パンサー アット チームタイランド
2019 SUPER GT RACE REPORT

第2戦 富士スピードウェイ（静岡県）

パンサー アット チームタイランドは、5月3日～4日、静岡県/富士スピードウェイで開催された2019 SUPER GT シリーズ第2戦に参戦しました。本大会は走行距離500kmとシリーズの中でも長距離レースとなるため、チームはナタポン・ホートンカム (Nattapong Hortongkum) と、ショーン・ウォーキンショー (Sean walkinshaw) に加え、サポートドライバーとして昨年までホートンカムとコンビを組んでいたナタウッド・ジャルーンスルカワッタナ (Nattavude Charoensukhawatana) を登録して備えました。

■公式予選

土曜日午前に行われた公式練習ではまず日本のサーキットを久しぶりに走るジャルーンスルカワッタナが走り始め、その後ウォーキンショーに交代してセッションを走り終えると、サーキットサファリの時間を使ってホートンカムが足慣らしを行いました。前半をホートンカム、後半をウォーキンショーが担当、足慣らしを行いました。

Q1 突破へ意気込んで迎えた第2戦でしたが、状況は決して思い通りではありませんでした。公式テストが行われた日の富士スピードウェイは気温が13℃前後と例年より冷え気味でしたが、本番を迎えた3日は気温が例年よりも高い20℃を超え路面温度も上がって、コンディションがまったく変わってしまったのです。

ジャルーンスルカワッタナは100Rでアンダーステアが強く出てアクセルを踏み込めないと状況を報告、ウォーキンショーもテストでタイムを稼いでいた勝負どころの中高速コーナーで挙動が安定せずスピードが乗らないと訴えます。しかしデータは限られており大幅な対応は危険があったため微調整のみ行ってQ1を闘うこととしました。

Q1はウォーキンショーが担当しました。チームは出走直前までタイヤを日光に当ててウォームアップを促した後装着、ウォーキンショーをコースへ送り出しました。ウォーキンショーは公式テストのときとはフィーリングが変わってしまったマシンを押しえ込みながらタイムアタックに入りましたがベストタイムは1分37秒852、クラス24位に終わり、1秒365遅れでQ1突破はならず、スターティンググリッドは24番手に決定しました。

■決勝レース

決勝レースではさらに状況が裏目に出ました。スタート直前、突然天候が悪化して雨が降り始めたのです。あまりの急変に天候の先行きがなかなか読めない中、チームはマシンにレインタイヤを装着したうえで協議を重ね、天候はスタート以降悪化せず回復に向かうと想定したセッティングをほどこしました。スターティンググリッドが後方になってしまったため、リスク覚悟の作戦でした。

さらにチームは、少なくとも2回の給油をしなければ走りきれない長いレースで、今年日本のレースを走っていないジャルーンスルカワッタナは敢えて投入せず、ウォーキンショーにスタートをまかせてできる限り周回数を稼いだ後ホートンカムに交代、ホートンカムが義務周回数を満たした時点で再びウォーキンショーに交代してレースを走りきる作戦を立てました。

ところが事態はさらに裏目へ向かいました。スタート直後天候が悪化、雨が強まってしまったのです。雨量が少ないことを想定したセッティングで走るウォーキンショーにとっては厳しいコンディションで、徐々に順位を下げざるをえない状況でした。しかし給油のタイミングを考えるとすぐにピットへ呼び戻すわけにもいきません。そうこうするうち路面コンディションの悪化を理由にセーフティーカーが介入、その後雨が土砂降りになったた

め16周目に赤旗が提示されてレースは15周終了時点の順位のまま一旦中断となりました。

天候回復を待ってレースが再開されました。雨はほぼ止んでいましたが路面には水が残って水しぶきが上がる状況です。レースは残り95周、チームは給油量を考え、ライバルより早めの20周目にウォーキンショーをピットへ呼び、ホートンカムへの交代を行いました。

路面は徐々に乾き始めていましたがまだスリックタイヤで走れるコンディションではなく、ホートンカムもまたレインタイヤでコースへ復帰しました。この時点で順位はクラス28番手まで下がっていました。その後、路面が乾いていく中、ホートンカムはクラス20番手まで順位を上げましたが、路面が乾き周囲がスリックタイヤを装着してペースを上げるにつれ順位を落としていきました。チームはホートンカムが義務周回数34周を消化するのを待ち、ピットへ戻してウォーキンショーへ交代、マシンにスリックタイヤを装着、コースへ送り出しました。この時点で順位は27番手となっていました。

ところが事態はさらに裏目に出て、一旦濡れて乾いた路面は汚れてピックアップを拾うなどの影響かスリックタイヤが想定グリップを発揮しないのです。ウォーキンショーは苦しい走りを強いられ、結局タイヤ交換をするため予定外のピットインをするなどして追いつけはならず、トップから5周遅れのクラス24位でチェッカーフラッグを受けることとなりました。

パンサー アット チームタイランドは、開幕戦に続く完走によりチームポイント1点を獲得、シリーズランキングで同点16番手につけてシリーズ第2戦を終えました。

■正式結果

公式予選 クラス24位（出走29台） 1分37秒852

決勝 クラス24位（出走29台） 5周後れ

■コメント

A ドライバー：ナタポン・ホートンカム

「開幕前テストでは非常に良い感触でセッティングが進んでいました。でも気温が上がったうえに雨が降ってしまい、まったく異なるコンディションでレースをせざるをえませんでした。ぼくはこのコースのウェットコンディションはあまり経験がないのでショーンに頼ることになってしまいました。それにしても、濡れた路面から乾いた路面へ変化していく中、走るのはとても難しかったです」

B ドライバー：ショーン・ウォーキンショー

「タフな週末でした。テストまではチームのスタッフがマシンをいい感じに仕上げてくれて良いタイムが出ていました。ところがこの週末はトラックコンディションが変化してしまい、ぼくたちはレースでギャンブルに踏み切らざるをえませんでした。でも天候の予想が外れ、早めにピットインせざるをえず裏目になってしまいました。スリックタイヤにしてからはまったくグリップしない状態で、大変苦しい走りを強いられました。確かに結果は出せませんでしたが、苦しい中にも今後へ向けて良い方向も見えたのでそれを望みに第3戦を迎えます」

チーム監督：ステポン・サミタチャ (Suttipong Smittachartch)

「本格参戦3年目、RC Fで2年目の今年はマシンの熟成も進み、開幕前テストでは好タイムを記録していたのでいよいよ目標であるQ1突破、トップ10入賞が見えていたのですが、うまくいきません。わたしたちはこういう経験を通して日本のレースでのデータを蓄積しなければなりません。それだけSUPER GTのレベルが高いということでしょう。残念ですが次のレースで頑張ります」